

さんよう広場

第19号

三木山陽病院 広報委員会

平成24年1月

新年明けまして おめでとうございます



皆様には夢あふれ希望に満ちた1年であるようにと願っています。それでもちょっとだけこちらにも目を向けてください。

高齢化社会と在宅医療の推進から急速に胃ろうが普及し、新規の造設件数は年間20万件、交換件数は60万件と報告されています。しかしそれを必要とする患者さんのほとんどは意思決定能力がなく、その決定は家族に委ねられます。家族にとっては本人の命の長さを結果として自分が決めるという厳しい決断が迫られることになるわけです。

“胃瘻からの栄養によっても生きてほしい”、しばしば家族の強い愛情を感じます。しかし単に“食べれないから”とか、“施設に入所するためには点滴とか鼻からの経管栄養ではだめだから”と、胃瘻をつくるにあたって病院の都合から家族が追い込まれたり、後ろめたくなるような誘導をしてはいけないと思っています。近いうちに胃瘻に関するガイドラインが提示され、胃瘻を選択しないこと、途中から中止することも許されることが明記されることになると思います。大事なことは本人の意思であり、家族が本人のことをどう思い、どうしてあげたいかという確かな意志だと思います。

医療には限界があります、無力なところがたくさんあります。

DNR (Do not resuscitate: 『蘇生をしない』) といって、“癌の末期、老衰、救命の可能性がない患者さんに、本人または家族の希望で心肺蘇生 (CPR) をおこなわない”ということが日常臨床の中で普通に行われるようになりました。DNRの代わりに AND (Allow natural death: 『自然死容認』) という言葉もあります。高齢者の終末期の医療は、複数の疾患の末期にあり、急変時に蘇生術を行っても回復の可能性はほとんどなく、最期は「蘇生をしない」というよりも「自然な死」という方が受け入れやすい言葉のように思われます。

わが国では日本の文化もあってか、いまだ尊厳死や患者の医療拒否権について社会全体で明確な合意が形成されたとはいえません。みんなでもっと考えたほうがよいと思います。少なくとも私たち医療に関わるものは、自らがこれらの状況においてどうあるべきかを考えることは責務ともいえます。それでこそ患者さん、家族の選択を受け止めることができるのではないのでしょうか。生命を守るのが第一義的であることはいまでもありませんが、一方、安らかな死を看取ることも医師、医療スタッフの重要な仕事だと思っています。



三木山陽病院 病院長 森田 須美春



看護部が今年頑張ること

看護部長 合田 洋子



明けましておめでとうございます。看護部長の合田です。本年もよろしくお願い致します。今日は、看護部について何でもいいので書いて下さいと広報委員より依頼を受けました。何でもと言われると少しつまってしまいますが、まずは見切り発車してみます。

最初に看護部の基本情報を少し紹介いたします。病院で一番大きな所帯は、どこの病院でも看護部です。当院の職員は全部で約 300 人、そのうち看護部は現在 180 人になります。やはり多いですね。看護部の職員は看護師、准看護師、ケアワーカー、クラーク達です。ケアワーカーというのは、患者さまの身の回りの世話、いわゆる介護を主に担ってくれる人のことです。クラークとは、病棟内での事務全般をしてくれる人のことです。外来においてのクラークは診察室での診療の補助、事務を担当しています。私が看護師だった頃は、看護師と准看護師しかいなかったのですが、現在では看護師の仕事に専念できるよう心強いパートナーを得ることができています。これはとても幸せなことです。

次に勤務している場所は、急性期病棟、一般病棟、療養病棟、外来、内視鏡室、手術・中央材料室、透析センターの 8 か所です。8 人の看護部長と主任看護師、5 人の主任ケアワーカーが現場をまとめてくれています。心強い存在です。看護部長室は看護部長と事務担当者 1 人の 2 人所帯です。たった 2 人ですが内容は濃いと自負しています。

三木山陽病院では、院内異動はありますが、病院を変わるという転勤はめったにありませんので病院への愛着心の強い人が職員に多いと日々感じる事ができます。また、子育てをしながら勤務してきた職員が多いので病院と共に育ってきたと思っている人も多くいます。

ここで当院の良さを私流に紹介してみます。

- 1 患者さまの立場を尊重する病院であること。
これは、公的、民間関係なく医療者としての姿勢を持ち続けられる病院であることです。
- 2 ベッド数 191 床は、患者さまを把握するのに理想的な数、患者さまをチームで協力して動くのに丁度良い数です。
- 3 職員 300 人は、お互いを知り合える最大限の数。
- 4 ここからは、看護の醍醐味として患者さまと継続的に関わることが出来る環境がある。どういうことかと
言いますとどこの病院でも高齢者の占める割合が多くなっています。その患者さま 1 人が、いくつもの病気を
持っていて、それがいかなる状態であっても、あちこち病院を変わるのではなく、ここで対応していくことが
出来るのです。すなわち、急性期から回復期、慢性期、在宅まであらゆる健康の段階の看護を経験出来る。
自分たちがやって来た事の評価も継続的にできるのです。これは、私たち看護師にとって魅力のあることです。
期間限定で終了、さよならしていくのではないのです。短期勝負が好きなお人もあるかもしれませんが、私は
継続的に患者さまと関われる環境が好きですし看護師が育つにはこの環境が必要だとも思っています。ひとつ
ひとつ丁寧に、視野を広げて患者さまが必要とする看護を重ねていくことを仲間とともにやっていくことは、
確実に喜びや充実感、やりがいにつながります。

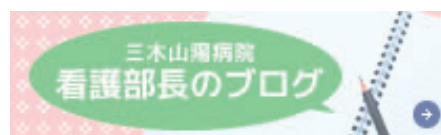
先日、職員全体に「より良い組織にする為に」どのような事が自分たちに出来るのか意見を出してもらいました。一部紹介します。

- ☆ 言葉遣いがそのまま態度に表れると思う。丁寧な言葉を使っていきたい。
- ☆ 職員同士が丁寧な言葉で接していかないと患者さまの心に向いていかない。
- ☆ 患者さまとは長い付き合いになるので、つい、緊張感が無くなりそうになることがある。
- ☆ 病院を良くしていこう、患者さまを大切にしていこうという思いは皆一緒だと話し合っていました。
- ☆ 部署間の連携は大切。どうしても自分の所しか見ていないことがあるが、病院全体を見ないといけないと思った。

など多くの意見が出されました。

こういう気持ちに触れると本当に人は人財（人は財産）であると勇気づけられます。今年、当院の看護部の職員同士が、今までよりも一歩、踏み出すことは、各自の思いを話すこと、聴くに努力することだと思っています。昨年 9 月から私も自分の思いを「看護部長ブログ」に載せています。

<http://mikisanyo.exblog.jp/>



病院のことだけでなく三木の魅力も含めて、紹介しながら感じたことをつたない文章ですがチャレンジしています。仲間とともに「伝えあう心でホップ、ステップ、ジャンプ」出来るよう頑張りましょう！

アレルギー性鼻炎と風邪の違い

花粉、ハウスダストなどによる鼻のアレルギー症状と、いわゆる鼻かぜの症状には違いがあります。

症状がアレルギーによるものかどうか分からないときは、医師に相談しましょう。

	アレルギー性鼻炎	風邪
発熱	一般的に発熱はない	発熱性を伴う事が多い のどの痛みがある
症状の季節性	通年型（ハウスダストなど） →1年中しばしば起きる 季節型（花粉） →決まった月か季節の変わり目に起こる	短期間で軽快
家族歴・既往歴	家族にアレルギー歴を持つ人が多い アレルギー性疾患にかかった事がある	特に関係がない
鼻汁	水様性の鼻汁が激しく出る	にごった鼻汁
鼻粘膜	青白くむくむ事が多い	赤くなる

サンスマイル三木より

デイケア（通所リハビリテーション）をご案内します
 デイケアは、要支援・要介護認定を受けた方が利用できる介護保険の在宅サービスです。
 サンスマイル三木のデイケアでは充実したリハビリテーションを特徴としつつ、それぞれの利用者様に応じたレクリエーションを提供し、ゆったりと居心地のよい時間を過ごしていただける様こころがけています。

12月はクリスマスで行事も多く、皆さま楽しいひと時を過ごしていただきました。
 <クリスマスウィーク>



クリスマスリースを作ってお家で飾っていただきました。



利用者さまが共同制作したちぎり絵



チアフルファミリーバンドによるクリスマスコンサート

<ご見学は気軽に！>

どんなところかちょっと見てみたい方はお気軽に 病院 1 階総合支援相談室もしくはサンスマイル三木にお声かけください。

<デイケア体験ご利用も受付中> ※要支援・要介護認定をお持ちの方が対象です。
 ご希望の方は ・ ・ ご担当のケアマネージャー様か直接サンスマイルにご相談下さい。
 サンスマイル三木：デイケア担当 ・ ・ 澤村・高柳 ☎0794-87-8720



3階 クリスマス会

12月21日3階病棟でクリスマス会をしました。今回はボランティアのムジカドルチェさんを迎えてチェロの音色に癒されました。可愛いサンタの服装の子供たちのあわてんぼうのサンタクロース、マルマルモリモリのダンスに患者さま、スタッフも思わず笑顔になりました。短い時間でしたが楽しいひと時でした。



クリスマスコンサート

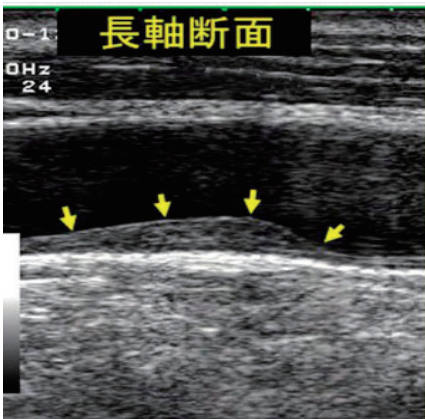
今年も12月17日(土)、1階ロビーにてクリスマスコンサートを開催致しました。MOMOさんの心温まるクラシックギターの演奏、三木山陽病院内保育園児の愛らしいダンスと歌声、そしてTed & マイケルさんの絶妙なハーモニーに観客の皆さまや私たち職員も素敵なひとときを過ごさせていただきました。



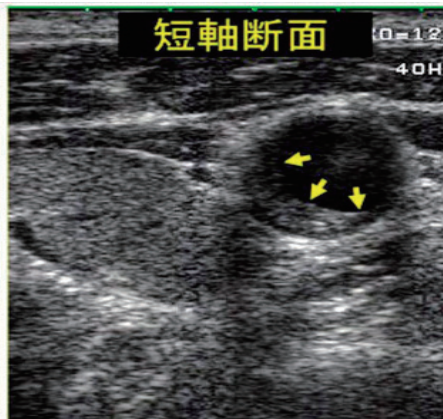
頸動脈エコーについて

動脈硬化とは、動脈の血管壁が老化して硬くなるだけでなく、血管の内側にも汚れがこびりついて血液が詰まりやすくなる状態です。加齢、糖尿病、脂質異常症、高血圧、喫煙などさまざまな原因が重なって進行します。

動脈硬化は痛くもかゆくもなく病気が進んでいき、ある日突然、心筋梗塞や脳梗塞などをひきおこすまで気が付かないので、予防や再発防止が大切です。



長軸断面



短軸断面

左の写真は、超音波で首の血管をみたものです。矢印で囲まれた部分がプラークです。血管の内腔が狭くなっているのがわかります。

当院では超音波を利用して、首の血管の状態を見ることが可能です。痛みもなく、10分前後で検査できます。食事制限もいりませんので、ご希望の方は、お気軽に外来スタッフにお声かけください。



臨床検査科

アクセス MAP



医療法人社団 朋優会

三木山陽病院

〒673-0501

三木市志染町吉田 1213-1

TEL 0794-85-3061

FAX 0794-85-3582

<http://www.mikisanyo-hp.com>

E-mail: info@mikisanyo-hp.com